

第10回国労フクシマ交流・視察学習会



「フクシマを忘れない つながろうフクシマ」(広島原爆ドーム前にて)

2022年11月26日(土)～11月27日(日)

国鉄労働組合

はじめに

東京電力・福島第一原発事故から11年8ヵ月が過ぎました。

東電と国は2041年～51年までに最も難関といわれる溶融核燃料（デブリ）を取り出して廃炉を完成させる計画でしたが、最初に取り出しを進める2号機は、デブリを空気中で取り出す『気中工法』で準備が進められ、3号機は『冠水工法』で行うことが検討されたものの、廃炉作業は難航を極め、いまだ取り出し技術の確立でさえ手探りの状態にあります。

昨年4月13日、政府は、貯蔵タンクに溜まり続けたトリチウム等を含むALPS処理水（汚染水）を太平洋に海洋放出する方針を関係閣僚会議で決定しました。そして「関係者の了解なしでは放出しない」としていた東京電力は、漁業・水産関係者をはじめ、多くの福島県民の強い反対を押し切って、海底に設置したパイプラインで1km程度の沖合に放出するための配管工事に着手し、2023年春以降に開始する事前準備を進めています。

一方、岸田政権は脱炭素の加速化やロシアのウクライナ侵攻によって生じたエネルギー問題に口実にしなが、GX（グリーントランスフォーメーション）実行会議を立ち上げ、福島第一原発事故後から守ってきた「原発依存度の低減」方針を転換し、原子力の最大限活用、原発再稼働の推進と新增設、運転期間の制限（現行原則40年、特別に60年まで）の撤廃、高速炉や小型原発の開発、核融合炉開発の推進など、一転して原発推進政策に大きく舵を切りました。このままでは再稼働した老朽原発の無期限運転にもなりかねません。

こうしたなか、今年2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が開始されましたが、市民を巻き添えにしたロシア軍による残虐行為となりふり構わぬ原発関連施設等への攻撃・占拠は世界中の人々に衝撃や恐怖を与えました。さらには核兵器廃絶のために多くの人々が営々と築き上げてきたたゆまぬ努力を踏みにじって核兵器使用がほのめかされ、国内でも政府関係者からは「核共有」や「核抑止」という言葉が平然と唱えられるようになりました。

インドやパキスタンで核実験が相次ぎ、軍事的緊張が高まっていた1998年、若い世代に核廃絶や世界平和を国連で直接訴えてほしいという思いから、長崎で「高校生平和大使」が発足して今年で25周年を迎えます。

毎年入れ替わる高校生たちが、変わらぬ思いをもって四半世紀もの間、バトンをつないできましたが、連日伝えられるウクライナでの戦争の惨禍に対して「このままではいけない」と危機感を持ち、自らが平和を発信するという決意をもって平和大使に応募した高校生は過去最多だったと伝えられています。今年もそうした第25代の高校生平和大使があらたに選出されましたが、今回も私たちの交流学習会でその思いを語っていただきます。

原発事故被災地での「国労フクシマ交流・視察学習会」も今回で10回目となりました。

高校生平和大使のようにこれから国労を担う次世代の仲間たちとともに、東電福島第一原発事故の教訓を風化させず、原発再稼働阻止と再生可能エネルギー政策への転換と脱原発社会の実現に向け、さらに運動をすすめていく決意を固め合いたいと思います。

第10回国労フクシマ交流・視察日程について

1. 日 時 2022年11月26日(土)～11月27日(日)
2. 内 容 (1) 東京電力福島第一原発事故被災地視察
 - ① 常磐線運転状況および避難指示解除区域等の視察
 - ② 原発事故関連施設等の視察
- (2) 福島第一原発の現状と課題についての学習会
- (3) 現地からの報告と交流

【11月26日(土) 現地視察・交流会】

【集合時間・場所】26日(土)12時20分 JR常磐線「いわき」駅改札集合

●品川発「ひたち7号」⇒いわき着12:07 ●仙台発「ひたち14号」⇒いわき着12:16

『現地視察』第1班(JR採用中心)

13:00 いわき駅西口出発(昼食後)⇒常磐線運転状況視察(Jヴィレッジ駅・夜ノ森駅)⇒15:00 富岡町『東電廃炉資料館』⇒「ホテル丸屋グランデ」18:00 着予定

『現地視察』第2班(シニア中心)

13:00 いわき駅西口出発(昼食後)⇒常磐線復旧状況視察(Jヴィレッジ駅・夜ノ森駅)⇒15:40 双葉町『東日本大震災・原子力災害伝承館』⇒「ホテル丸屋グランデ」18:00 着予定

交流会 18:30 から <全行程レンタカーで移動>

<宿泊> 『ホテル丸屋グランデ』 ☎ 0244-23-6221

〒975-0004 福島県南相馬市原町区旭町2丁目28番地

【11月27日(日) 現地視察・学習会】

『現地視察』第1班(JR採用中心)

8:30 ホテル出発⇒

9:00 双葉町『東日本大震災・原子力災害伝承館』

※ 昼食 12:00～(双葉町産業交流センター『伝承館』内)

『現地視察』第2班(シニア中心)

8:30 ホテル出発⇒

9:30 富岡町『東電廃炉資料館』⇒ 双葉町産業交流センター

※ 昼食 12:00～(双葉町産業交流センター『伝承館』内)

『第10回国労フクシマ交流学習会』(同会場 13時～15時30分)

※終了後、双葉駅またはいわき駅(17時30分頃着予定)まで車で移動して解散

交流・学習会次第

『交流会』（18:30～20:30）

- | | |
|-------------|-----------------|
| (1) 司会・開会挨拶 | 辻 将城（国労本部業務部長） |
| (2) 主催者挨拶 | 木村 忠義（国労本部副委員長） |
| (3) 自己紹介 | 全員から
懇 談 |
| (4) 閉会挨拶 | 岩元 孝信（国労本部書記長） |

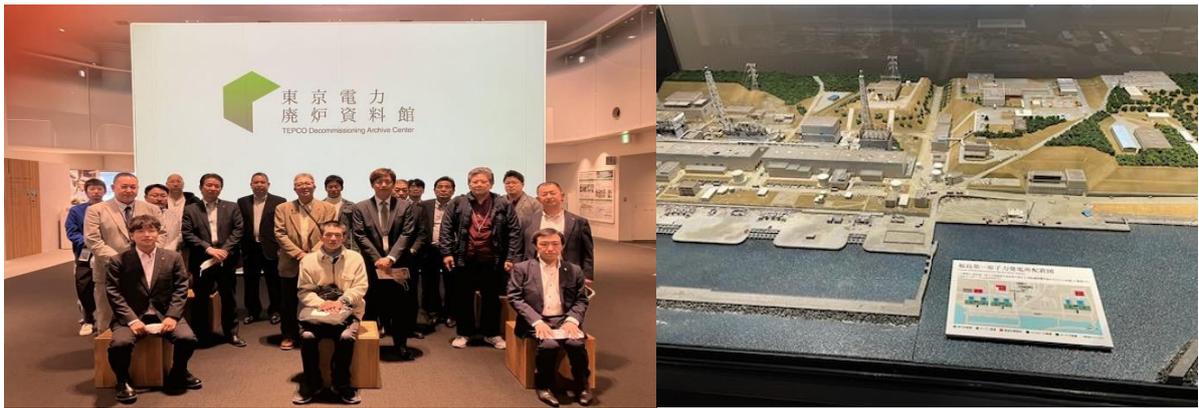
『第10回国労フクシマ交流学習会』（13:00～15:30）

- | | |
|-----------------------------|--|
| (1) 司会挨拶 | 赤沼 廣行（国労水戸地本書記長） |
| (2) 開会挨拶 | 埴 正人（国労水戸地本委員長） |
| (3) 主催者挨拶 | 松川 聡（国労本部委員長） |
| (4) 来賓挨拶 | 星 美羽（みう）さん（第25代高校生平和大使）
中條 紗音（すずね）さん（第25代高校生平和大使） |
| (5) 講 演 | 『脱原発－フクシマの現状と課題』
引地 力男さん（福島県平和フォーラム事務局長） |
| (6) 報 告 | 『常磐線全線運転再開までの取り組み』
泉 秀俊（国労水戸地本） |
| (7) 報 告（原発立地関係地本3エリア・3地方本部） | 北海道・北陸・静岡・米子・四国・九州の各エリア本部・地本 |
| (8) 意見・感想 | |
| (9) ま と め | 岩元 孝信（国労本部書記長） |
| (10) 閉会挨拶 | 小檜山 広幸（国労仙台地本委員長） |

第10回国労フクシマ交流・現地視察学習会写真



常磐線『夜ノ森』『Jヴィレッジ』駅を視察～モニタリングポストの数値はいまだに0.159 μ Sv/h



『東電廃炉資料館』と『伝承館』にて～原発事故の反省と教訓に学ぶ



第 10 回国労フクシマ交流学習会～『双葉町産業交流センター』にて



「核の苦しみ訴えたい」「武力による平和はない」～訴え続ける高校生平和大使

「一人一人 伝承者となり発信」



結団式で決意新たに25代高校生平和大使
 広島市西区 自民会館

被爆77年
 ナガサキ

広島で結団式

核兵器廃絶を国内外で訴える第25代高校生平和大使の結団式が11日、広島市であった。本県を含め17都道府県から選ばれた31人が参加。ロシアのウクライナ侵攻で「戦争も平和への関心が高まっている今こそ、一人一人が伝承者となって発信したい」と決意を新たにした。

高校生平和大使 活動へ決意

結団式で同大使派遣委員の小早川健共同代表(7)は「選挙の中で、高校生の考えの深さに驚いた。共に活動できることがうれしい」とあいさつ。31人にそれぞれ任命証が渡された。県立長崎西高2年の宮崎優花さん(16)は「署名を通じ、何かしたいと思っている人たちの声を届ける架け橋になりたい」。ロシアの侵攻後、ウクライナの友人からの連絡が途絶えたという福島県立橋高2年の遠藤光さん(16)は「戦争の恐ろしさを理解したい。戦争反対を自分の言葉で発信したい」と力を込めた。

研修として広島平和記念資料館元館長で、被爆者の原田浩さん(82)が自身の被爆体験や広島の平和運動について講話。「被爆者一人一人が悲惨な体験を持っていて、自分のことを受け止めて、被爆者の代わりに世界に伝えてほしい」と思いを託した。

平和大使は1998年に長崎で発足、スイス・ジュネーブの国連欧州本部に核兵器廃絶を求める署名を届けているが、新型コロナウイルスの影響で過去2年は渡航を断念している。(牧夕和子)

令和4年6月12日 長崎新聞

平和願い「できること続ける」

高校生平和大使に20年以上、千羽鶴を託している五島市玉之浦町の藤原良子さん(84)が、今年も千羽鶴を完成させた。ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、平和への願いをさらに強く「千羽鶴を折った。藤原さんは、長崎市の友人の孫が高校生平和大使になったのを機に千羽鶴を折り始めた。2000年から毎年、スイス・ジュネーブの国連欧州本部を訪れる同大使に託している。累計で30万羽以上となり、09年には秋月平和賞を受賞した。

2月、ウクライナにロシアが軍事侵攻し、プーチン大統領は核使用をちらつかせた。藤原さんは母と姉が被爆者。連日の報道に心を痛め、むな

被爆77年
 ナガサキ



平和への願いを込めて千羽鶴を完成させた藤原さん(五島市玉之浦町)

84歳 五島の藤原さん 今年も高校生大使へ千羽鶴

しさを感じたという。それでも「自分ができていることを続けよう」と、4枚四方の10色の色紙を下準備に折り続けた。

6月に核兵器禁止条約第1回締約国会議があったオーストリア・ウィーン。藤原さんは、現地に派遣された平和大使の神浦はるさんに今年折った5千羽を持っていったら、海外の参加者らとの交流で披露し、好評だったという。

残り1万2千羽は今月、高校生平和大使派遣委員会に宅配便で送る。

平和大使は今年25周年。藤原さんは、スローガンの「微力だけど無力じゃない」を引き合いに「今年は特にこの言葉の意味を実感している。私がやっているのは米粒ぐらい小さいかもしれないが、平和への願いを届けたい」と話した。(角村亮一)

核の苦しみ伝えたい

星 美羽さん(17)

福島県 磐城緑蔭高2年



もともと貧困や飢餓などの国際問題に興味があったが、核兵器や原発も現代の大きな問題。生まれて育った福島県は原発事故後、風評被害に苦しんできた。報道を見て心を痛めたことを覚えていいる。このような経験を今後、誰かにしてほしい。核兵器廃絶はもちろんだ、広島、長崎、そして福島で核によって人々がどのような苦しみを感ぜ、思いを抱えて生きてきたかを訴えたい。



◇6◇

県外メンバーへの質問項目
平和大使に応募したきっかけや抱負

第25代高校生平和大使

幸せと思える世界に

中條 紗音さん(16)

福島県 福島東稜高2年



高校で平和大使の活動を知り「平和のために少しでも役に立てるなら」と考えた。戦争を経験した人は身近にいないが、多くの命を奪う戦争はどのような理由であっても許されない。平和に近づくには武力で脅すのではなく、互いを理解しようとし、相手の立場で考えられるような話し合いが大切。少しでも多くの人が今を幸せだと思えるような世の中にならなければならない。活動をしていきたい。

平和への願い訴える

涌井 董子さん(15)

東京都 明治大付属明治高1年



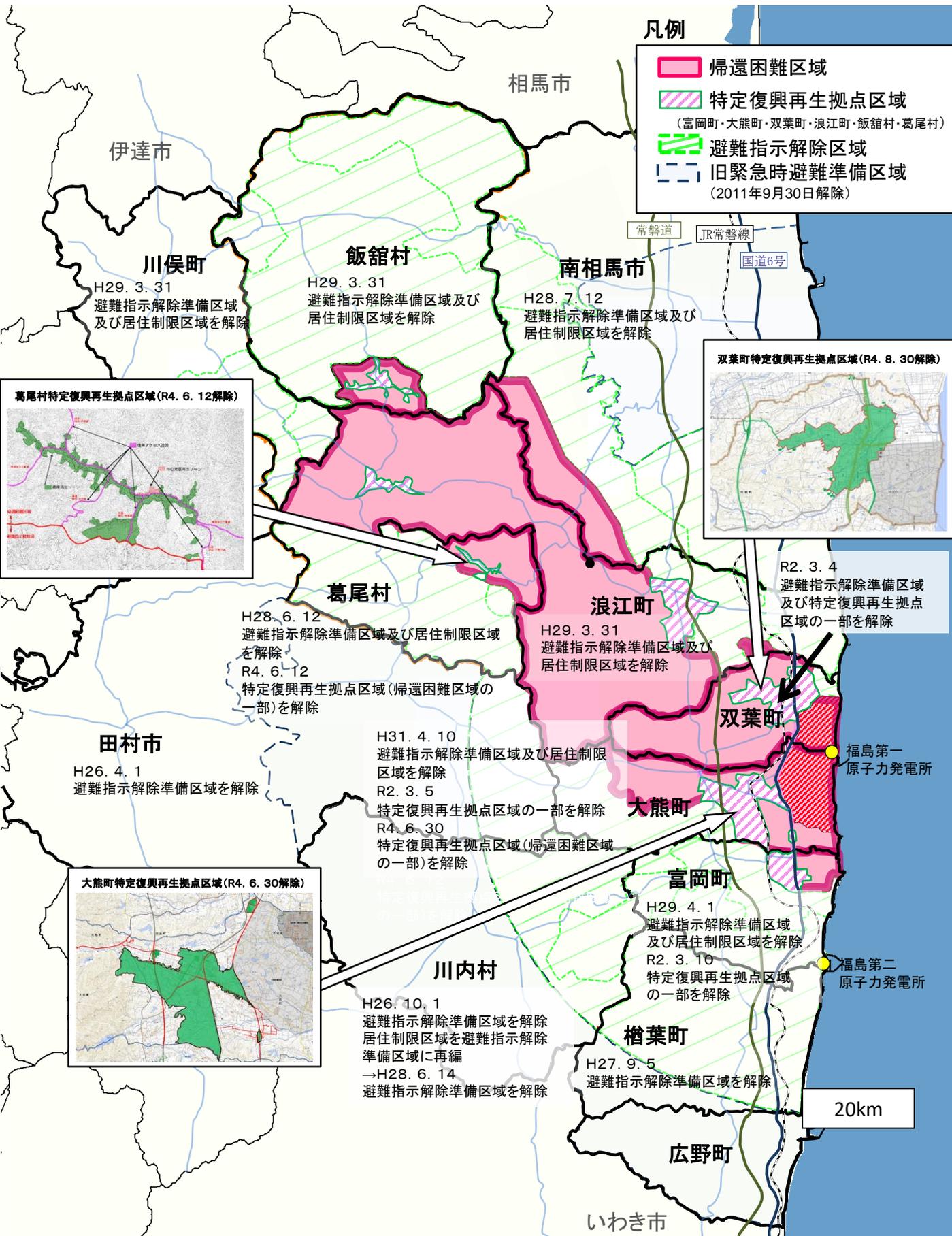
小学生の時に祖母が住んでいる新潟が原発の投下候補地だったと知った。もし投下されていたら私はこの世に生まれてなかったかとも思い、怖くなった。人ごととは思えず、中学生の時に東京都調布市が任命するピースメッセンジャーとして被爆者の話を聞くなどした。この経験を生かし、平和大使として活動の幅を広げ、世界へ向け平和への願いと核兵器廃絶を訴えていきたい。

避難指示区域の概念図

令和4年8月30日時点 双葉町特定復興再生拠点区域の避難指示解除後

凡例

- 帰還困難区域
- 特定復興再生拠点区域
(富岡町・大熊町・双葉町・浪江町・飯館村・葛尾村)
- 避難指示解除区域
- 旧緊急時避難準備区域
(2011年9月30日解除)



H29. 3. 31
避難指示解除準備区域
及び居住制限区域を解除

H29. 3. 31
避難指示解除準備区域及び
居住制限区域を解除

H28. 7. 12
避難指示解除準備区域及び
居住制限区域を解除

葛尾村特定復興再生拠点区域(R4. 6. 12解除)

双葉町特定復興再生拠点区域(R4. 8. 30解除)

H28. 6. 12
避難指示解除準備区域及び居住制限区域
を解除

R4. 6. 12
特定復興再生拠点区域(帰還困難区域の
一部)を解除

H29. 3. 31
避難指示解除準備区域及び
居住制限区域を解除

R2. 3. 4
避難指示解除準備区域
及び特定復興再生拠点
区域の一部を解除

H26. 4. 1
避難指示解除準備区域を解除

H31. 4. 10
避難指示解除準備区域及び居住制限
区域を解除

R2. 3. 5
特定復興再生拠点区域の一部を解除

R4. 6. 30
特定復興再生拠点区域(帰還困難区域
の一部)を解除

大熊町特定復興再生拠点区域(R4. 6. 30解除)

H29. 4. 1
避難指示解除準備区域
及び居住制限区域を解除

R2. 3. 10
特定復興再生拠点区域
の一部を解除

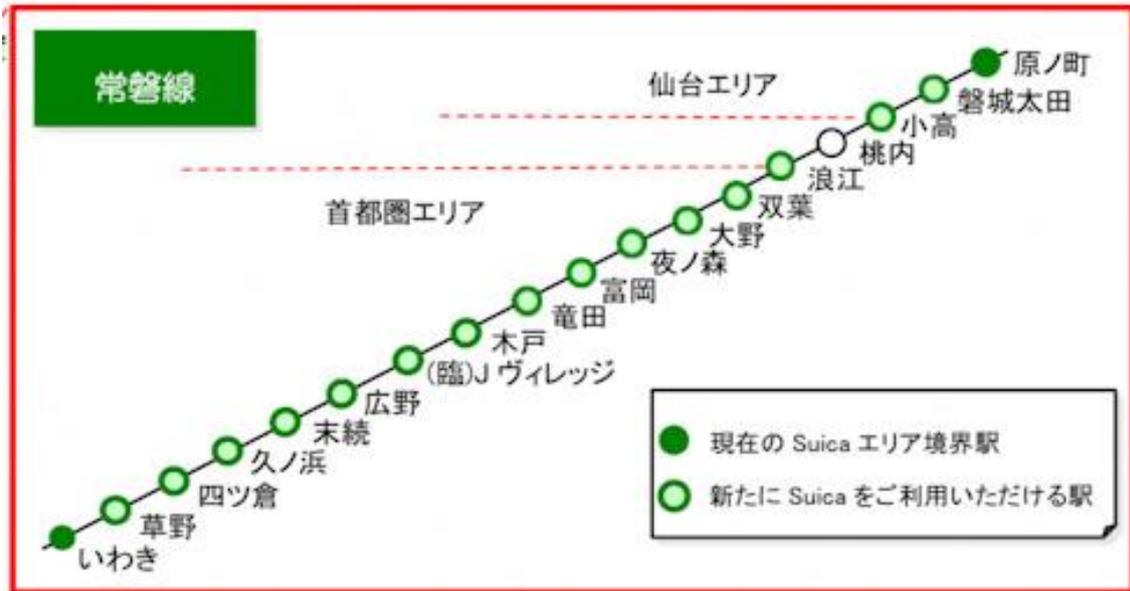
H26. 10. 1
避難指示解除準備区域を解除
居住制限区域を避難指示解除
準備区域に再編
→H28. 6. 14
避難指示解除準備区域を解除

H27. 9. 5
避難指示解除準備区域を解除

20km

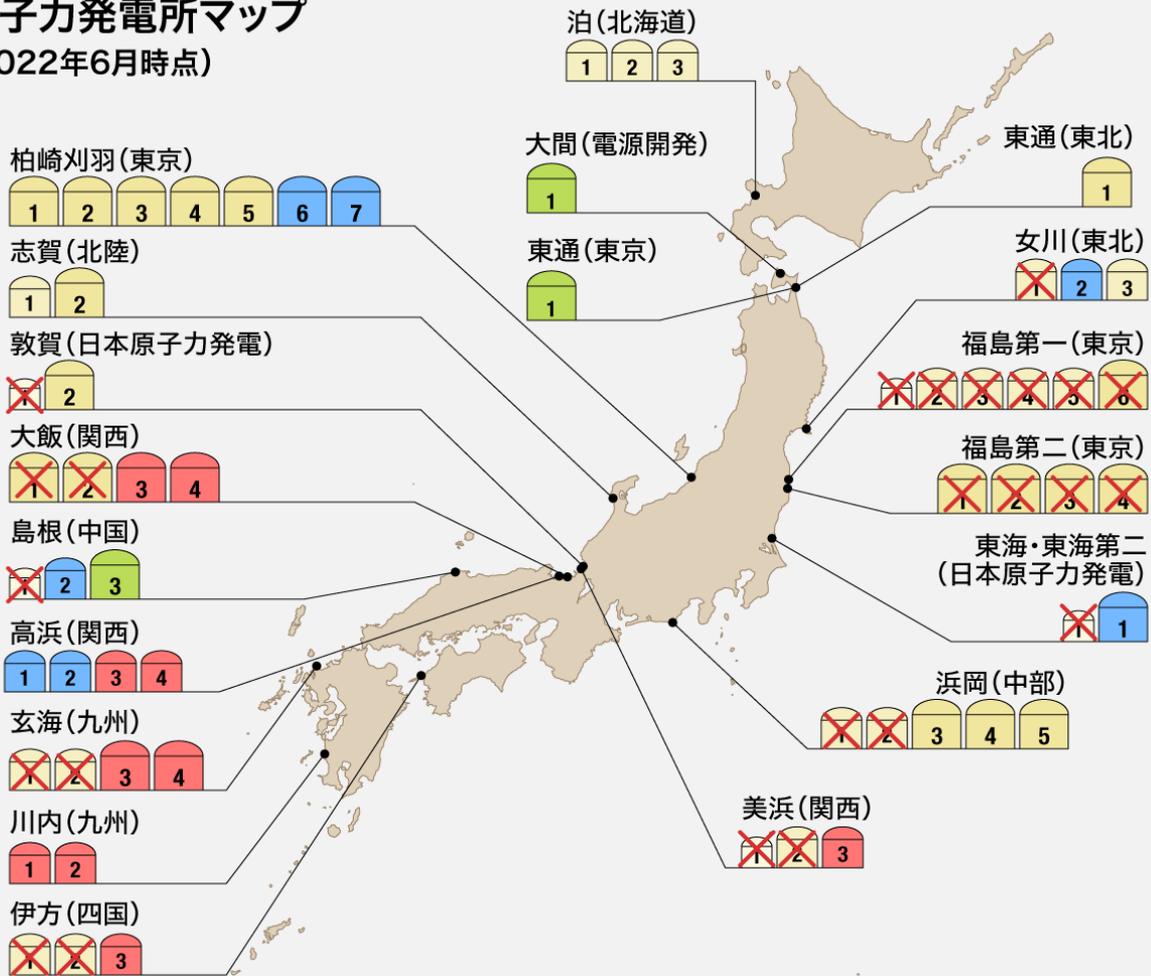
<資料>

常磐線（いわき～原ノ町間）と伝承館・双葉町産業交流センター



全国の原発再稼働と廃炉の現状

原子力発電所マップ (2022年6月時点)



各電力会社公表資料等を参考に編集部作成
 ※東日本大震災前の時点で廃炉決定済だった東海発電所と浜岡発電所1・2号機も地図に含めている。

nippon.com

凡例

出力規模

- 50万kW未満
- 100万kW未満
- 100万kW以上

- 再稼働済 (定期検査中も含む)
- 新規制基準合格
- 建設中
- 廃炉決定済

原発を巡る岸田首相の主張や 自民党公約と政府の新方針



政府は原発を「重要なベースロード電源」と位置づけているが、将来的には、**再生可能エネルギーを主力電源化し、原発への依存度は下げていくべきだ**(2020年の著書で)

安全が確認された**原発の再稼働を推進**。**可能な限り原発依存度を低減**する(21年衆院選の自民党公約で)

安全が確認された原子力の最大限の活用を図る(22年参院選の自民党公約で)

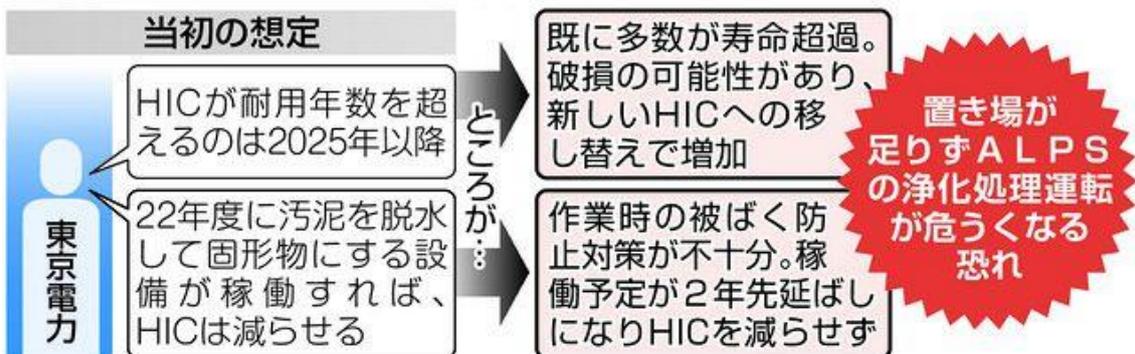
新增設や運転期限の延長は明記せず

- 政府が新たに示した方針**
- 原発の**新增設**を検討
 - 最長60年の運転期限の延長を検討
 - テロ対策の不備が指摘されている東電柏崎刈羽原発など**7基の再稼働**を目指す

	従来の政策 (エネルギー基本計画)	GX実行会議で 示された方針
原子力政策の転換内容 原発への依存度	可能な限り原発依存度を低減する	経済産業省「依存度を低減させる方針は変わらない」
新增設	(明確な記載なし)次世代型原発の研究を進める	次世代型原発の開発・建設を検討
再稼働	原子力規制委員会が規制基準に適合すると認めた場合、その判断を尊重し再稼働を進める	来年夏から冬以降に、規制基準に適合済みの7基の再稼働を目指す
運転延長	長期運転を進めていく上での諸課題について、官民それぞれの役割に応じ検討する	運転期間の延長など既設原発を最大限活用



福島第一原発のずさんな廃棄物管理



60年超の原発も運転容認 原子力規制委

仕組みの上では無期限も可能に（東京新聞 22.11.3 より）

原子力規制委員会は去る11月2日の定例会で、「原則40年、最長60年」とする原発の運転期間の規定を見直す政府方針を受け、60年を超えた原発でも10年以内ごとに設備の劣化状況を審査し、新規制基準に適合すれば運転を認める方針を示した。

仕組みの上では、無期限運転も可能になりかねない。

現行の40年超の運転延長は、制度導入時に「例外中の例外」とされたものの、具体的な審査に入った原発4基全てが認可され、形骸化している。

原発の運転期間を原則40年とする規定は、東京電力福島第一原発事故を受け、2012年に原子炉等規制法（炉規法）を改正して導入。40年を前に「特別点検」と呼ばれる詳しい劣化状況調査をした上で、1回に限り最長20年の運転延長ができることになっている。

